

# お知らせ



## その他のお知らせ トピックス

### 5月12日は 民生委員・児童委員の日です

“私たち民生委員・児童委員は、あなたの身近な相談相手です。”



民生委員・児童委員は、誰もが安心して、住み慣れた地域で暮らすことができるよう、生活上の心配や悩み事の相談に応じ、その課題が解決できるよう関係機関への「つなぎ役」、「見守り役」になります。守秘義務がありますので、地域の民生委員・児童委員へ気軽に相談してください。

問 社会福祉課 地域福祉係  
☎お太助フォン42-5615  
☎42-2130

### 芸備線に関するアンケートに協力をお願いします

県立広島大学と広島文教大学の研究グループでは、芸備線の利用促進を目的に「芸備線に関するアンケート調査」を実施しています。

#### アンケート回答方法

QRコードから芸備線利用調査ページにアクセスし、回答してください。



■ 回答期限：5月31日(火)

時日時 問お問い合わせ先 所場所 予予約 備備考 料料金 申申込

※回答内容は本調査の目的、および学術研究以外には使用しません。

問 県立広島大学 生物資源科学部 地域資源開発学科 吉野研究室  
☎0824-74-1000

## 募集

### 里山林整備事業取組団体募集

里山の景観回復と有害鳥獣の出てく環境作りのため、里山林整備に取り組む地域、団体を募集します。※地域、団体の伐採にかかる費用負担はありませんが、実施後10年間は、対象森林の適切な維持管理について、市と協定を結ぶ必要があります。



申込期限 6月3日(金)

問 農林水産課 林業水産係  
☎お太助フォン47-4022  
☎42-1003

### 「法の現場」見学ツアー

法を尊重することの大切さの理解を深めるを目的に、広島裁判所・検察庁・法務局・弁護士会・法テラスが共催している「法の現場」見学ツアーの参加者を募集します。

#### Aコース

5月11日(水)13時30分～17時  
広島家庭裁判所～広島地方検察庁～広島弁護士会

※申込締切：5月9日(月)

#### Bコース

5月18日(水)8時45分～12時15分  
広島地方検察庁～広島地方裁判所～法テラス広島

※申込締切：5月16日(月)

#### Cコース

5月30日(月)13時30分～17時  
広島弁護士会～広島地方裁判所～広島法務局

※申込締切：5月26日(木)

定員 各コース10人  
(先着順、団体は2人まで)

問 申 広島高等裁判所事務局  
総務課広報係  
☎082-221-2516  
(平日9時～17時)

「広報あきたかた」が 最優秀賞 初受賞! /

令和3年度 広島県広報コンクール(広報紙・市部門)

これからも、「市民の皆さまに見やすく分かりやすい広報紙」をお届けしていきます。

広報コンクール 1964年から行われている日本広報協会主催のコンクール。地方自治体などの広報作品を審査し、優秀団体を表彰するもの。

たくさんのご支援 ありがとうございます。

令和4年3月31日で受け付けを終了しました。

令和3年8月大雨災害に対する寄附状況 ふるさと納税災害支援

合計 1,050件 1,880万5,812円(3月31日時点)  
この寄附金は市の災害復旧等に活用させていただきます。

自衛官募集～平和を仕事にする～			
募集項目	応募資格	受付期間	試験日
一般幹部候補生	大卒	3月1日～6月16日	【1次】6月25日 【2次】8月1日～7日
	22歳以上26歳未満の者		
自衛官候補生	院卒	年間を通じて行っております(詳細はお問い合わせください)	受付時にお知らせします。
	20歳以上28歳未満の者(修士課程修了者等)		
自衛官候補生	18歳以上33歳未満の者		

※詳しい内容はホームページをご覧ください。自衛隊可部募集案内所にお問い合わせください。  
※本庁・各支所にパンフレットを置いてありますのでご利用ください。 自衛隊可部募集案内所 ☎082-815-3980

## 安芸高田

# 歴史紀行

## 線刻如来形坐像鏡像

(宮崎神社蔵歴史民俗博物館寄託)



鏡径 9.9 cm  
図像総高 9.5 cm  
仏像高 5.8 cm

表面



線刻模写



いだしめい 鑄出銘 裏面

## シリーズ 「博物館コレクション」第20回



安芸高田市歴史民俗博物館 学芸員 吉藤 妃花梨

「鏡像」は、神道で御神体とされる銅鏡に、主に線刻(鑿)などの道具で刻んだもの(か墨画)で神仏を表したものです。日本に仏教が伝来・発展する過程で、元々日本に存在した神と仏教が融合調和する、神仏習合という信仰から生まれました。神仏習合は奈良時代には全国の神社に広がり、平安時代初期には仏教の人々の救済のため、仮に日本の神となつて現れたと説く「本地垂迹説」として展開。明治維新後、神道と仏教を分離させる神仏分離政策でその風潮は見られなくなりますが、今でも一部の神社に名残があります。

鏡像は日本以外にも、中国や韓国でも発見されていますが、その起源は不明です。日本の鏡像の起源も明確ではありませんが、紀年銘(年代が記された銘文)が記載された作例の存在から、概ね平安時代半ば、10世紀末頃とみられ、その後12～13世紀にかけて盛んに制作されました。初期は唐鏡や唐式鏡が用いられましたが、後には和鏡、鏡を模した銅板、鉄などの素材でも制作されるようになっていきます。

宮崎神社の鏡像 宮崎神社は、現在も吉田町相合に存在する神社で、毛利氏の氏神を祭る神社として相模国(現在の神奈川県)から観応年間(1350～1352年)に分霊したと伝えられています。この鏡像は、宮崎神社本殿内に安置された熊野神社(吉田町相合・明治42年合祀)玉殿内から発見されました。宮崎神社蔵の鏡像は、平安時代(794～1185年)末ごろの作とみられています。中国宋代(960～1279年)に作成された六花形の湖州鏡(中国の舶載鏡)に線刻したもので、この種の鏡を用いたものでは全国で6例目です。表面には如来形(阿弥陀如来または薬師如来)坐像が浅く線刻され、背面の鑄出銘(鑄造した銘)は不明瞭で読み取ることができませんが、2行、全13字が書かれているようです。宮崎神社に伝わったこの鏡像は、神仏習合的な思想が広く浸透していたことを証明する重要な資料の一つです。